

区長記者会見 質疑要旨

日時	平成 30 年 9 月 20 日(木) 午後 1 時 00 分～2 時 00 分
出席者	区長、土木管理課長、治安対策担当課長、環境保全課長、公園緑地課長、広報課長補佐
案件	「としまセーフシティ作戦」について

区長ほか	「としまセーフシティ作戦」について説明。
質疑応答	
記者	① 路上喫煙禁止区域と罰則を知りたい。 ② 路上喫煙・ポイ捨て指導員は何人か。
環境保全課長	① 平成 23 年から区内全地域で路上喫煙禁止。罰則は、罰金も明記しているが、まずはルールの周知を行っている。 ② 警備会社に委託。2 名 3 班 計 6 名。池袋地域は 2 名 2 班 計 4 名。翻訳機は班に 1 台設置予定。
記者	③ 罰金徴取の実績はあるか。 ④ これまで禁煙指導でトラブルがあるか。
環境保全課長	③ 罰金までいった実績はない。 ④ 口論になることは年に何回かあるが、大きなトラブルはない。厳しい声かけより PR をするよう指示。罰金や警告せず、自主的にルールを守るように声掛けしている。
記者	路上喫煙・ポイ捨て指導員の活動時間は。
環境保全課長	パトロールは平日 7 時～19 時、 休日は 7 時～20 時まで。 夕方からはポイ捨ての指導員が喫煙も声掛けし、22 時まで。
区長	喫煙者は 22 時以降にどっと出てくるのが実情。24 時間警備するか、課題がある。警備会社には、警察 OB など元気のいい方を依頼。
記者	① 路上喫煙・ポイ捨て対策の都内初の定義を教えてください。 ② 自動翻訳で相互対話ができる機器か。金額は。
環境保全課長	① 多言語音声翻訳機をポイ捨て禁煙の対策に活用することが都内初。 ② ハンディの自動翻訳機で、相互対話で使用予定。機器は、使いやすさを加味しながら今後選定。5 万円程度を予定。
記者	禁煙・ポイ捨て以外の案内もするのか
環境保全課長	その他の質問にも対応する予定。
記者	① 平成 29 年度の路上喫煙者は 3 万人とあるが、外国人の内訳は。 ② 外国人喫煙者は、路上喫煙禁止ルールを知らずに喫煙しているのか。これまで外国人喫煙者とのトラブルはあるか。 ③ 翻訳機の導入時期は
環境保全課長	① 数は出ないが、体感的には 3 割。

	<p>② 禁煙ルールを知っていても吸う人はいる。指導時に、外国人からの質問が分からなく、返答ができないケースがあった。相互理解のために翻訳機を活用していく。</p> <p>③ 来年 2019 年 1 月。東アジア開催に併せて導入する。</p>
区長	区民からも、外国人がルールを理解せずに喫煙しているとの声が届いている。外国人への周知がこれからの課題。
記者	外国人への翻訳機対策は、定住者とインバウンド、どちらへの対策か。
環境保全課長	定住者には、外国語版広報や HP でも今後周知していく。インバウンドには翻訳機を使い、直接の声掛けを行う。
記者	<p>① 都の禁煙条例も関連するが、街中の喫煙スペースを積極的に増やすことはあるのか。</p> <p>② 客引きパトロールの実績状況を教えてほしい。</p> <p>③ 客引き対策でのグルメ等と連携した対策の開始時期はいつか。サイト契約打ち切りの実績はあるか。</p>
環境保全課長	① 喫煙所を増やすのは難しい。池袋は繁華街であるため、分煙化してお互いにルール守る。必要最低限、現状の喫煙所を維持する。
区長	公共施設はすべて喫煙所を作らない
治安対策担当課長	<p>② パトロール回数は、補足資料 P3 に掲載。看板・ポイ捨てと共に実施。加えて巣鴨地区でも実施。</p> <p>③ グルメサイト協定は平成 28 年度から。契約打ち切りの実績はなし。</p>
記者	客引き対策での居酒屋本社への声掛けの数を教えてほしい。
治安対策担当課長	大庄、和民の 2 社のみ。今後増やす予定。
記者	LGBT のパートナーシップ制度の導入に関して区長の狙いと意図は。
区長	前の定例会での請願が採択された。あらゆる状況を検討してきた。社会情勢、今の流れとして、社会のニーズに行政が応える形で自信を持って制度に取り組んでいく。条例を根拠として制度を実施するのは、全国で 2 番目だが、強い思いを持って今後もリードできるように進めていく。
記者	<p>① 街頭防犯カメラはいつごろから設置しているか。都内初の定義は、全町会に設置でよいか。</p> <p>② 翻訳機は何台導入するか。</p>
治安対策担当課長	① 街頭防犯カメラの設置は平成 15 年から把握。町会や商店街が独自で設置しているものや通学路に設置しているものも合わせ、全町会に設置するのが都内初。荒川区は丁目ごとに 1 台設置しているが、町会のほうがよりきめ細かく設置することとなる。
区長	今後は公園にも防犯カメラを設置していきたい。
環境保全課長	② 2 台を池袋での指導時に導入。
区長	池袋では、西口で 22 年、東口で 20 年、地元の方の環境浄化運動があるから安心安全な街になってきた。今後も現場の声を行政に活かしていく。